

氏名	中川 紗智		
学位の種類	博士（理学）		
学位記番号	博 甲 第 9 4 3 6 号		
学位授与年月日	令和2年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	生命環境科学研究科		
学位論文題目	Characteristics of Yokohama as the Prostitution Area in the 1950s Viewed from the Relocation History, Residence and Relationship with Urban Residents of Sex Workers. （娼婦の移動と居住および都市住民との関係性からみた1950年代における売春地域としての横浜の特徴）		
主査	筑波大学教授	Ph.D.	呉羽 正昭
副査	筑波大学教授	博士（理学）	堤 純
副査	筑波大学助教	博士（理学）	山下 亜紀郎
副査	筑波大学教授	博士（理学）	松井 圭介

論 文 の 要 旨

審査対象論文で著者は、娼婦の移動に着目するとともに、娼婦の居住と都市住民との関係性に着目しながら1950年代における売春地域としての横浜の特徴を明らかにすることを目的としている。

本論文で著者は、盛り場が都市において重要な部分地区の一つであることに注目する。一般に、盛り場にはさまざまな機能が存在することが指摘されてきたが、なかでも売春は盛り場に不可欠な要素であるとされてきた。売春やそれに関係する諸形態の空間的反映は売春地域と捉えられ、それは盛り場と重層的な関係を有する。売春地域に関して、これまで地理学的アプローチでさまざまな研究がなされてきたが、著者は、娼婦、とくに「赤線」や「青線」で売春をする「集娼」ではなく、「街娼・散娼」といった娼婦に視点を当て、その実態にせまる研究の欠如を指摘している。加えて、ヨーロッパの売春地域や娼婦に関する既存研究では、都市住民が娼婦や売春関連業者を空間的・社会的に排除しようとする現象が報告されてきた。本論文で著者は、都市における売春地域に関係する重要な担い手として、都市住民にも注目して分析する視点の重要性を主張している。このように売春地域に関する既存研究の整理をし、著者は、街娼・散娼の移動歴に着目するとともに、娼婦の居住と都市住民との関係性から売春地域の性格をとらえようとした。

分析資料の一つとして、著者は神奈川県婦人相談所がまとめた『婦人保護台帳』を利用した。これは、横浜市風紀取締条例違反で摘発された娼婦（街娼・散娼）等について、相談所が「転落動機、原因、期日」「社会的環境、家族との関係、生活状態」などに関する聞き取りを実施してまとめた調書である。本論文で著者は、この資料に基づいて、居住地記載のある615人分の娼婦の属性や移動歴などについて分析を行った。そのほか、当時の地元新聞記事のなかから、娼婦の居住や都市住民との関係に関する記事を探求し、それらの記述内容を分析資料とした。

その結果、第1に、著者は多様な属性からなる娼婦が横浜へと移動していたことを示した。多くの場合、移動の際に売春に従事することが想定されていたのである。女性が家族に頼らずに生活していくことが困難であった時代に、自立や家族の扶養のために売春が選択されていた。それゆえ、1950年代の横浜には、売春地域の

重要な構成員である娼婦が大規模に吸引されまた集積する地域的な諸条件があったことを強調した。

第2に、著者は横浜の売春地域としての特徴について次の3点が重要であることを指摘した。1点目は異なる顧客層を持つ複数の赤線や青線といった売春地区、また街娼が売春をおこなう地区が都市中心部や住宅街に立地また分布し、売春に関わらない都市住民の生活空間と混在していたことである。2点目は都市中心部をはじめとして市内の広範囲において、一般の住宅に多くの娼婦が居住していたことである。また、そうした現象に売春関連業者も深く関わっていた。3点目は売春顧客が駐留米軍人や日本人など横浜市内外に大量に存在し、買売春の構造は都市内部のみで完結するものではなかったことである。こうした性格は、買売春の構造が基地周辺のみで完結する、他の米軍駐留都市である横須賀や立川とは異なっていた。

第3に、著者は、1950年代の横浜には全国的に売春規制が強まるなかでも売春によって十分な収入を得ることができる構造が存在したことを指摘した。その上で、こうした構造が幅広い経歴を持ちながらも、個々の背景に基づいて移動と売春を行う多くの女性たちを誘引していたという特徴がみられることを明らかにした。

審 査 の 要 旨

本論文の最も特筆すべき独自性は、娼婦の移動歴に着目し、都市内部の盛り場として重要な売春地域の特徴について考察した点である。売春地域については、現地調査の困難性のために、その特徴は学術的にはほとんど解明されてこなかった。本研究は、その特徴把握のために、これまで研究資料として利用されることのなかった『婦人保護台帳』によって実際の娼婦の移動歴を分析し、1950年代の横浜における売春地域の特徴を解明した。これに加えて、国内の売春地域に関する既存研究でほとんど注目されてこなかった、都市住民と娼婦の関係性を分析した視点は、売春地域の特徴を学術的に解明する方法論として高く評価される。同時に、この視点は今後の売春地域研究に応用されるといった点でも意義がある。

一般に、都市にはさまざまな機能が存在する。都市が有する業務や商業に関してはこれまで人文地理学の立場から非常に多くの研究成果があげられてきた。一方で、都市においては娯楽や売春も重要な機能であり、その空間的反映である売春地域が都市構造において重要な要素であることは一般的に認識されている。ところが、売春地域の具体的な特徴は歴史的史料で総論的に、また概観的に分析されることはあっても、具体的に娼婦の移動歴などの実態について分析した研究、さらに売春地域の客観的特徴を提示した研究はほとんどない。本研究は、『婦人保護台帳』を用いて娼婦の実態を解明し、それに基づいて売春地域の特徴から都市の盛り場の特性を、都市地理学の観点も含めて示したという点で非常に画期的である。また、本研究は1950年代の横浜という都市の地域的特徴を示した地誌研究としての価値も非常に高い。以上の点から、本研究は売春地域に関する重要な人文地理学的研究として位置づけられ、博士論文として十分な価値があると認められる。

令和2年2月4日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものとして認める。